

いしのまき市 農業委員会だより

第16号
令和5年
1月1日発行

石巻初! ビール醸造所 誕生 (一社)イシノマキ・ファーム



【ホップ収穫風景】



【旧映画館日活パール劇場跡を活用した工場】

年頭にあたり

石巻市農業委員会 会長 三浦 孝一

明けましておめでとうございます。

皆様には健やかに新年を迎えることとお慶び申し上げます。また日頃より農業委員会の活動にご理解ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

昨年の農業情勢を振り返りますと、肥料、飼料、生産資材の高騰により農家の経営は大変厳しい状況におかれ、現場からは悲痛な声が多く聞かれました。輸入に大きく依存する日本農業の姿は食料安全保障にも大きな影響を及ぼしています。この様な中において麦、大豆、飼料作物の増産や堆肥の利用など国産化の道も徐々に進んでおり、これらが一時的ではなくしっかりと地に根をおろした動きになってほしいと願うものです。

さて、昨年の農業経営基盤強化促進法の一部改正による「人・農地プラン」法定化をうけ今春より市の進める地域計画作りが本格化します。農業委員会としても地域の優良農地を守り適切に利用されるよう経営体への農地集積、集約を推進し、農業の持続可能な成長のために、地域の将来の農地利用の姿、農地の未来図を考えていかなければなりません。農家の皆様のご理解ご支援をお願い申し上げ新年の挨拶といたします。

農地パトロールを終えて



農地の利用状況について、一筆ごとに調査を行いました。荒廃農地・遊休農地は山間や川岸付近に多く存在しており、そういった土地は農地中間管理機構も借受しないことがほとんどであり、出し手、受け手の調整が、現在のそして今後の課題であると思います。

調査中、腰膝を曲げ一生懸命に働く高齢の農業者の姿に心打たれました。あまり無理をなさらぬようお願いばかりです。

桃生地区：阿部 正展 推進委員



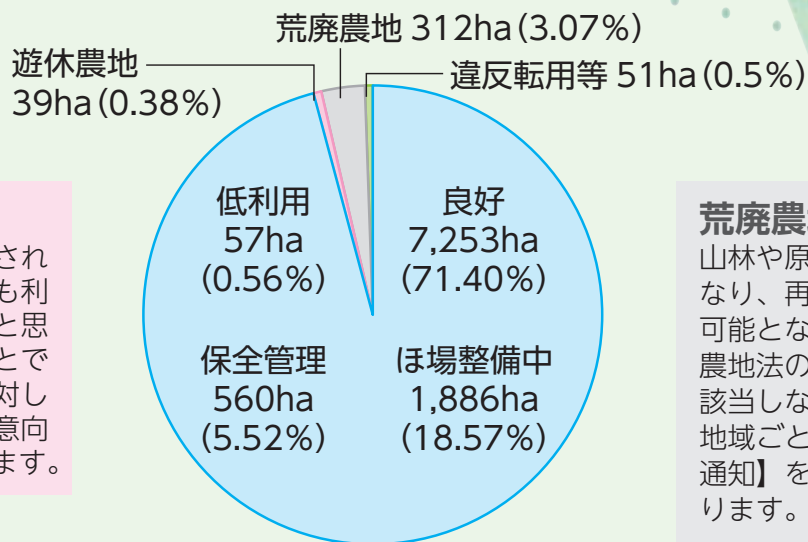
皆さんの水田や畑が適切に利用されているか、農地利用調査を実施しました。ほ場整備が進み美しい田園風景が見られる一方で、山際や傾斜地など条件が良くない田畑は耕作が難しいためか荒廃農地が多く、農地としての利用が困難な状況となっている様です。

遊休農地を今後どの様に解消していくべきかといろいろ考えながら、今年も農地パトロールを終えました。

河南地区：石川 雅洋 推進委員

令和4年農地利用状況調査結果(速報値)

石巻市全農地10,158haに対し、【農地利用状況調査】を行いました。



遊休農地

ここ数年作付けされず、今後も利用が見込めないと思われる農地のことです。遊休農地に対しては「農地利用意向調査」が行われます。

荒廃農地

山林や原野のようになり、再生利用が不可能となった土地で、農地法の【農地】に該当しない土地です。地域ごとに【非農地通知】を发出しております。

農地利用意向調査

対象となった皆様には、12月から順次「[調査用紙](#)」をお届けしています。〆令和5年1月末、までの回答をお願いします。

農地を農地以外に利用する場合、許可申請等を行う必要があります。手続きをせず転用した場合、農地法違反となり、現状回復命令等がなされる場合があります。これに従わない場合は罰則の適用もあります。農地の【盛土】【切土】にも届出が必要です。

女性委員の活動

みやぎアグリレディス21 地区別懇談会 会場：大崎市図書館

令和4年8月1日



女性農業委員活動の活性化と会員同士の交流を目的として、女性が農業経営や地域社会において役割を持ち、自分らしく活躍できるよう話し合いを行いました。

女性農業者の社会参画と認定農業者制度、家族経営協定等について情報提供があり、その後のグループ懇談では女性目線での委員活動のあり方などに活発な意見交換がなされ、大変有意義な懇談会でした。今後も、女性目線で物事を考えながら活動していきたいと思ひます。

(担当：山田慧子委員)

アスパラガス 採りっきり栽培について

提供：石巻農業改良普及センター

採りっきり栽培は、従来の露地栽培に比べて病気蔓延のリスクが少なく、植え付け2年目には太くておいしいアスパラガスが収穫できるため、出荷を狙う生産者はもちろん、初めてアスパラガスを栽培する家庭菜園にもお勧めの栽培方法です。



高収益作物の導入

石巻地域では、高収益作物としてのアスパラガスに注目し、令和2年から「アスパラガス研究会」を立上げ、石巻市や東松島市の約20人が栽培に取り組んでいます。4月～6月には直売所や石巻青果市場へ出荷され、地域の新しい特産品として人気が高まっています。



安定した収入の確保



- 露地で、定植翌年から本格収穫、毎年株を更新するので病気リスクが少ない。
- 4～6月に、直売所や市場へ出荷し高値が見込まれます。
- ハウスなどの設備投資が不要で家庭菜園にも合います。

ほ場整備での転作作物

アスパラガスは多年生作物で定植後数年収穫できますが、北海道などの産地では病害虫などにより栽培面積が減少しています。

そこで、明治大学が1年養成株全収穫栽培方法「アスパラガス採りっきり栽培」を開発しました。

栽培は、3～4月に定植し翌年4～6月に収穫するというもので、ほ場整備に伴う転作作物として農業所得の向上を目指します。



(担当：前野利春委員)

活躍中!

北上町・十三浜(カボチャ)

いしまき こうた
石牧 紘汰さん(2021就農)



前月号で新規就農者として紹介した石牧紘汰さん。市報いしのまき9月号の「みんなの広場」コーナーに大きく取り上げられています。(実は取材したのが同じ日でした・・・)

初年度は自然相手の難しさに直面し、収穫量は予定の10分の1程度。「本来なら喜びの収穫ですが嬉しさよりも悔しさしかない。」と話す石牧さん。周りの方々の支えもあって、常に前向きに頑張っています。7月には横浜市から両親が手伝いに来てくれたそうです。SNSを見て愛媛県から買いに来てくれた方もいました、とのこと。初収穫を終えて「この悔しさを糧にもっともつと頑張つて、カボチャの味も形も更に良くしていきたい。楽しみにして下さい!」と笑顔で話してくれました。これから活躍が楽しみです。頑張ってください!!

(担当：今野真理委員)

河南・広淵 イチゴ(紅ほっぺ)

かめやま くみ
亀山 久美さん(2021就農)



「前オーナーに指導を受けながら、収穫作業やパック詰め作業を行い、ようやく栽培から収穫までを習得することができました。」と久しぶりにお会いした亀山さんは自信に溢れた表情でした。

「まだまだ駆け出しのため、イチゴのパック詰め作業などは思った以上に難しかった。」とその様子を振り返りながら話してくれました。紅ほっぺはそれだけ繊細なのだそうです。

前オーナーとの最後の収穫作業は6月まで続き、本当に見事なほど大豊作だったそうです。「なぜなのかは分からないけど、オーナー最後の収穫だから、イチゴが何かを感じたのだろうか。」と不思議な経験だったそうです。

「これからも、前オーナーはじめ皆さんが大切にしてくれたハウスを守っていき、おいしいイチゴの栽培に努めていきたい。」とその思いを語ってくれました。

(担当：高橋由佳委員)

新規就農者

清水町(さつまいも)

たかはし まさひろ
高橋 聖公さん(2022就農)



牡鹿半島網地島にて、「ベニハルカシルクスイート」・「すずほつくり」のサツマイモ3種類、30アール5千本で作付け開始しました。初めての事ばかりの連続。ほ場整備から始まり最初はどのようなことや不安のスタートでした。後半に植えた苗は、高温と日照りでダメになったり、雑草対策や防虫対策などいろいろな経験と学びのあった年でした。

(取材：事務局)

渡波町(ワイナリー)

せんだい
(株)千台ファーム(2021就農)



牡鹿半島黒崎にて、ワイン用ぶどうの栽培に取り組んでいます。金華山を眺め、水平線を眺め、鳥や鹿、まるで自然のテーマパークのような空間で、どの品種が合うか1区画にてテスト栽培しました。植えた外周には害獣対策のネットを張り電柵で囲っています。

(取材：事務局)

女性委員の活動

親子ふれあい 稲刈体験会 行われる

2年ぶり開催!!

10月9日(日)桃生町神取のほ場で稲刈り体験を楽しみにしていた親子約30名が参加。刈り方の説明をベテラン農家の方から受け、始めて手にする稲刈り鎌で1株1株一生懸命に刈り取っていました。参加した小学生達は「楽しい!体が暑くなった!」と歓声をあげていました。稲刈りの後に、枝豆もぎや紙芝居、餅つきもあり、とても楽しい体験会となりました



(担当：今野真理委員)

石巻市農業委員会総会日程等

年月	項目	受付期間		専門委員会		総会
		開始日	締切日	農家相談	農地調査	
令和5年1月		4日(水)	10日(火)	18日(水)	17日(火)	27日(金)
2月		1日(水)	7日(火)	14日(火)	15日(水)	24日(金)
3月		1日(水)	7日(火)	16日(木)	17日(金)	28日(火)

申請の際には必ず事前に農業委員会にご相談ください(☎62-4826)
 石巻市のホームページでも案内や申請書様式をご覧ください。
 (<https://www.city.ishinomaki.lg.jp>)



農業者年金に加入しませんか?



※下表は通常加入で65歳までの運用利回りが2.5%、65歳以降の予定利率が0.30%となった場合の試算です。受給総額は男性86.5歳、女性92.0歳まで生存した場合を想定しています。

加入年齢	納付期間	保険料額	納付総額	年金額(年額)		受給総額(想定)	
				男性	女性	男性	女性
20歳	40年	1万円	780万円	58万円	49万円	1,243万円	1,315万円
		2万円	960万円	76万円	64万円	1,635万円	1,730万円
30歳	30年	1万円	660万円	45万円	38万円	968万円	1,024万円
		2万円	720万円	50万円	43万円	1,085万円	1,148万円
40歳	20年	2万円	480万円	30万円	25万円	642万円	680万円
50歳	10年	2万円	240万円	13万円	11万円	286万円	303万円

全国農業



新聞

週間

月4回金曜日発行
 月700円、年8,400円
(消費税込)

■購読の申込みは農業委員会へお気軽に連絡ください

編集後記

明けましておめでとうございます。皆様には、幸多い新年でありますよう、ご祈念申し上げます。

昨年は、気候変動により日本各地で大雨が発生し、農業被害も多数見受けられました。当管内では、冠水によって大豆に一部被害が発生しました。コロナウイルス、ウクライナの状況により農業経営の見通しは困難ですが、今後も皆様に農業委員会活動をできるだけ分かりやすくお伝えできるよう活動して行きたいと思っています。

編集委員11名は今号にて交代となりますが、これからも地域への情報発信等に努めてまいります。

最後に、編集にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます、編集後記とさせていただきます。



編集委員

委員長 佐藤 克美

副委員長 後藤 嘉伸

委員 近藤 茂

山田 慧子

高橋 由佳

遠藤 章一

今野 真理

前野 利春

今野 勝夫

三浦 孝一

伏見 晃也

